

日本旧石器学会

ニュースレター 第42号 NEWS LETTER No. 42

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION



日本旧石器学会第17回大会の開催（報告）

2019年度日本旧石器学会第17回大会が、2019年6月29日・30日、東京都豊島区の大正大学巣鴨キャンパスを会場に開催された。以下に概要を報告する。

総会

6月29日13時30分から日本旧石器学会総会が行われた。冒頭、阿子島香会長から挨拶があり、その後事務局からの推薦により須藤隆司会員が議長に選出された。議事は、各委員会より2018年度活動報告と2019年度活動計画の報告が行われた。質問・要望事項について審議した後、採決により承認を得た。各委員会の報告・審議事項については本号に掲載しているとおりである。続いて2018年度日本旧石器学会賞の受賞者の発表と授賞式が行われた。学会賞は伊藤健会員、奨励賞は岩瀬彬会員にそれぞれ贈られた。

一般研究発表

総会に続いて一般研究発表が行われた。諸星良一、渡邊玲ほか、鈴木忠司ほか、市田直一郎、野口淳ほか、門脇誠二、加藤真二、橋詰潤ほか、平澤悠の各氏（連名発表は筆頭発表者名のみ記載）により、計9本の発表が行われた。

ポスターセッション

ポスターセッションは、6月30日に行われ、コアタイムが同日12時30分～13時30分の間に設けられた。中沢祐一ほか、高倉純、夏木大吾、青木要祐・熊谷誠、熊谷亮介ほか、高屋敷飛鳥、光石鳴巳ほか、千葉史ほか、国武貞克、内藤裕一・門脇誠二の各氏（3名以上の連名発表は筆頭発表者名のみ記載）により、計10本の発表が行われた。

『旧石器研究の理論と方法論の新展開』

シンポジウムは6月30日に開催された。まず研究企画委員会の三好元樹委員による趣旨説明の後、続いて7本の基調報告が行われた。安斎正人氏「考古資料から歴史構築へ」は日本の旧石器時代にかかわる理論研究を牽引してきた立場から報告が、鈴木美保氏「刃部磨製石斧の起源—伝播か収斂進化か？」と五十嵐彰氏「旧石器研究における接合の方法論的意義—「砂川モデル」の教訓—」は、日本でそれぞれ

進めてきた研究の紹介が行われた。韓国と日本で旧石器研究を進めてきた洪恵媛氏「旧石器研究をめぐる理論動向の比較：韓国と日本」と、フランスで旧石器時代洞窟壁画の研究を行ってきた五十嵐ジャンヌ氏「ヨーロッパ旧石器時代洞窟壁画の解釈」は、それぞれの立場から日本とは異なる旧石器研究のあり方について紹介がされた。中尾央氏「Practice without theory is blind (and theory without practice is empty)」は、科学哲学などを専門としつつ、近年、考古資料を用いた研究や考古学者との共同研究を進めてきた立場から、溝口孝司氏「ポストプロセス考古学から見た旧石器時代研究への提言」は、ポストプロセス考古学の立場から、日本の旧石器研究の課題と可能性について報告と提言がされた。パネルディスカッションでは、考古学になぜ理論が必要なのかという根源的な問いから始まり、文化進化、収斂進化、問題点を有する「砂川仮説」を批判的に継承し発展させる必要性の提言、考古誌、国内外の理論研究の動向など、多様な論点について会場からの発言を含め活発な議論が行われた。最後に、阿子島香会長による、長時間の遺物観察の経験が重要な考古学という学問にとって、そうであるからこそ、そうした実践を何のために、どうやって行うのかを頭に置くべきであり、個別の研究や分析にこそ理論が存在しているとの講評の言葉で本シンポジウムはまとめられ、本大会は盛会のうちに終了した。

（ニュースレター委員 橋詰潤記）



シンポジウム・パネルディスカッションの風景

2018年度委員会報告

2019年6月29日（土）日本旧石器学会総会が開催されました。2018年度の活動について各委員会から報告が行われ、審議の後に承認されました。内容につきましては以下の通りです。

総務委員会

1. 会員情報の管理：2018年度新入会員は7名、退会者は3名で、2019年4月1日現在での会員数は233名である。
2. 役員会に関連する資料の作成・会場設営・連絡調整：2019年5月18日駒澤大学駒沢キャンパス。
3. 総会関連資料の作成・会場設営・連絡調整：2019年6月29日・30日大正大学巣鴨キャンパス。
4. 会務関連の連絡・調整、各委員会間の連絡調整
5. 会誌（『旧石器研究』第14号）、ニュースレター（第39～41号）、各種学会連絡文書発送：会誌発送は2018年7月20日、ニュースレター発送は2018年9月に39号、12月に40号、2019年4月に41号、それ以外に適宜要望に応じて発送を行なった。
6. 日本考古学協会総会図書交換会におけるシンポジウム予稿集及び会誌『旧石器研究』の頒布：2019年5月19日駒澤大学。
7. 研究グループ支援制度に関する事務：新規研究グループ申請への対応、（1）「郡家今城遺跡の再整理」（研究代表者：鈴木忠司）、（2）「旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ」（研究代表者：堤隆）。
 - ・両研究グループの採択と運営費交付金について、役員会（2019年5月18日）で審議した結果、両研究グループを日本旧石器学会として支援し、両研究グループに2019年度運営費交付金として15,000円を交付することとした。
8. 日本旧石器学会賞に関すること：（1）2018年度総会において2017年度の学会賞・奨励賞の授賞式を行った。（2）2018年度の学会賞、奨励賞選考に係る事務を行った。（3）若手育成を目的とし、現行の学会賞・奨励賞の改変、それに伴う「日本旧石器学会賞規定」と「『旧石器研究』投稿規定・執筆要項」の改訂について審議した。
9. メーリングリストに関すること：郵送費削減や会員への連絡事務の軽減のため、メーリングリストを運用している。現在の登録人数は98名である。
10. 共催・資料提供等について：秋田考古学協会と「平成30年度秋田考古学協会秋季研究会 氷河時代を生き抜いた狩猟民—秋田の旧石器時代—」を共

催（2018年11月10日、アキタパークホテル）。

・東北日本の旧石器文化を語る会と「データベースワークショップ 福島旧石器遺跡マッピングパーティー」を共催（2018年12月15日、郡山女子大学）。九州旧石器文化研究会、福岡旧石器文化研究会、島根大学法学部山陰研究センターと「データベースワークショップ 九州旧石器遺跡マッピングパーティー」を共催（2019年2月9日、福岡市博物館講座室2）。株式会社入試センター使用のテストに、学会Webサイト内「旧石器時代の教科書」の画像（「旧石器時代はどんな環境だった？—図2」）の提供。メディア・リサーチ・センター株式会社が発行する『雑誌新聞総カタログ』に、会誌情報の提供。

会計委員会

1. 2018年度の活動実績について

（1）役員会、総会・研究発表・シンポジウム、日本考古学協会図書交換会時：会費・学会刊行物頒布代金の徴収（総務委員会と協同）及び当該現金収入の学会口座への預入。日本旧石器学会賞副賞、各委員会立替金、仮払金の現金支出。

（2）通年：会員ごとの会費納入状況管理、会費納入・住所変更等の総務委員会への報告。刊行物頒布等収入の管理。シンポジウム登壇者、普及講演会講師及び会議・普及講演会・データベースワークショップに出席した役員の交通費補助額の算定・支払。学会刊行物（研究発表・シンポジウム予稿集、会誌14号、ニュースレター39・40・41号）印刷製本費・発送費支払。HP管理・メーリングリスト構築運用委託費の支払。APA日本大会経費積立金の口座管理（積立金入金等）。その他、学会出納口座の管理。

2. 2018年度決算について

（1）一般会計（表1参照）：収入は、予算額を81,176円上回った。主な原因は、会費収入増（17年度延236人・年分⇒18年度延251人・年分）。支出は、下記費目は予算を上回ったが、他の費目は予算枠内で執行され、総額では予算範囲内で執行された。【支出増の費目及び原因】①会議費・会場設営費：会場設営アルバイト代支出。②消耗品費：役員引継用USBメモリー購入。③印刷製本費：印刷費高騰。④日本旧石器学会賞関連経費：賞状ホルダーを複数年度分まとめて発注。予算額比で、実収入額は81,176円の増、実支出額は98,550円の減。167,926円の黒字が発生、2019年度への繰越金は1,922,816円となった。

（2）特別会計（表2参照）：2018年度に所定の

150,000円を積み立て、480,000円を2019年度に繰り越した。

(3) 会計監査：2019年6月9日、会計監査委員から、2018年度会計が適正に執行されている旨確認を受けた。(会計監査報告書の掲載は省略)

会誌委員会

1. 2018年度活動の概要

2018年度の会誌委員会の目標は、会誌が充実した内容となるよう責任ある編集体制の確保に努めるものとし次の目標・課題を設定した。(1) 研究企画委員会と協力しながら学術的水準を維持しつつ、意欲的で充実した誌面づくりに努める。そのため、積極的に各地域の会員からの投稿を募り、多様な論考の集約を行う。(2) 編集作業の工程を見直し、2019年の日本考古学協会図書交換会に会誌刊行を間に合わせる。(3) 旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知してその協力を求める。(1) について、研究企画委員会等の委員会の協力を仰ぎ、第16回研究発表・シンポジウムの発表者の投稿他、多彩な内容の論考を掲載できた。(2) の会誌編集について、頒布を日本考古学協会図書交換会に合わせる事ができた。(3) についても他の委員会の協力を得て、周知に努める事ができた。

2. 会誌『旧石器研究』第15号(2019年5月刊行)の内容：第15号は、総説3、原著論文5、資料報告3、シンポジウム報告1、訂正と補遺1、会則・規定・会員名簿等からなる。総頁数は約182頁で、本誌の構成は以下のとおりである。

・総説：松村博文「ユーラシア東部におけるホモ・サピエンス拡散の二層モデル」、河村愛「化石記録から復元される日本の中期更新世以降の哺乳動物相と推定される古地理・古環境」、国武貞克「カザフスタン後期旧石器時代研究の現状と展望」

・論文：保坂康夫「礫群をめぐる砂川期の移動生活」、御堂島正・堤隆「石器痕跡分析の有効性—ブラインド・テストによる検証—」、加藤真二「中国の旧石器—その石器群類型と編年—」、尾田識好「武蔵野台地における後期旧石器時代初頭の編年と行動論—武蔵台遺跡の分析を中心に—」、高倉純「長野県上水郡信濃町大久保南遺跡出土石器群における石刃剥離方法の同定」

・資料報告：国武貞克・ベフィートフ・ガリムジャン・オスパノフ・ヨルボラート「カザフスタン南東部天山山脈北麓における後期旧石器時代遺跡の探索」、山岡拓也「東京都府中市武蔵台遺跡から出土した剥片に残された剥離痕」、堤隆・池谷信之「矢

出川遺跡の細石刃石器群」

・シンポジウム報告：小原俊行「日本旧石器学会第16回シンポジウム『日本列島への人類拡散と後期旧石器時代の成立を考える』」

・訂正と補遺：山田しょう「総論：使用痕研究の現状と旧石器時代における行動研究への応用」〔旧石器研究14(2018)：1-16頁〕

会則・規定、役員名簿、会員名簿、投稿規定・執筆要項

ニュースレター委員会 2018年度はニュースレター第39号、第40号、第41号の編集・発行を行った。主な内容は以下のとおり。

〈第39号〉2018年9月16日刊行：日本旧石器学会第16回大会の開催(報告)、2017年度委員会報告、2018年度活動計画、2017年度日本旧石器学会賞受賞者の発表、2018年度学会賞の推薦について、2018年度日本旧石器学会役員会、2018年度第1回普及講演会案内、関連学会情報、お知らせ

〈第40号〉2018年12月28日刊行：アジア旧石器協会第9回大会参加記、2017年度日本旧石器学会賞受賞者報告、2018年度第1回普及講演会報告、2018年度第2回普及講演会・遺跡データベースワークショップ開催案内、2019年度総会・研究発表・ポスターセッション発表の募集、関連学会情報、お知らせ

〈第41号〉2019年4月26日刊行：沖縄の化石調査、2019年度日本旧石器学会第17回総会・研究発表・シンポジウムについて、2018年度第2回普及講演会報告、関連学会・出版情報、お知らせ

渉外委員会

1. APA2018(ロシア大会)に出席。詳しくはニュースレター40号を参照。

2. APAに関して

・日本からの執行委員は、阿子島香、出穂雅実、加藤真二の3名(任期は次期APA大会まで)。

・次期(2019年1月1日~2020年12月31日)APA会長：王幼平(北京大学教授)。

・次回第10回APA大会2020の開催国：中国。

・新名誉会長：高星(IVPP研究員)。

・APA加盟国を拡大することが各国代表によって承認され、次の点を確認した。

①名誉会長は、創立4カ国からのみ選出される。②中国大会の次は、韓国(2022年)、日本(2024年)と創立加盟国が大会を開催し、次いで新加盟国が大会を開催する。③会長は、新加盟国も含め、大会開催国から選出される。④現会長から、マレーシア、タイ、ヴェトナム、フィリピン、インド、イン

表1 日本旧石器学会2018年度一般会計決算（単位：円）

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会費収入				
会費収入	1,398,000	1,455,000	57,000	延べ251人・年分【内訳】17年度以前34人、18年度199人、19年度18人(納入額不足者も含む)
その他の収入				
会誌頒布代金	240,000	252,800	12,800	最新刊(14号)51冊、バックナンバー21冊
シンポジウム予稿集頒布代金	250,000	234,900	△15,100	最新刊137冊、バックナンバー48冊
その他収入	10,000	36,476	26,476	懇親会余剰金等
前期繰越収支差額	1,754,890	1,754,890	0	
収入計	3,652,890	3,734,066	81,176	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	60,000	67,660	7,660	日本考古学協会図書交換会卓代、データベースワークショップ(以下「DBWS」という。)会場使用料、会場設営アルバイト代等
旅費交通費	250,000	198,000	△52,000	学会賞選考委員、シンポジウム(以下「シンポ」という。)発表者、普及講演会講師、DBWS運営役員、普及講演会講師旅費補助
通信運搬費	190,000	141,402	△48,598	会誌・ニュースレター(以下「NL」という。)送料等
消耗品費	10,000	15,422	5,422	事務用品等
印刷製本費	1,080,000	1,088,208	8,208	研究発表・シンポ予稿集、会誌、NL3件
諸謝金	0	0	0	
委託費	64,800	64,800	0	HP管理・メーリングリスト構築運用
次回APA日本大会経費積立	150,000	150,000	0	
研究グループ運営経費	0	0	0	
シンポジウム開催準備費	35,000	0	△35,000	
日本旧石器学会賞関連経費	40,000	59,952	19,952	賞状・ホルダー製作、副賞
雑費	30,000	25,806	△4,194	郵便振替・振込手数料等
予備費	1,743,090	1,922,816	179,726	
支出計	3,652,890	3,734,066	81,176	

表2 日本旧石器学会2018年度特別会計（APA日本大会開催経費積立）決算（単位：円）

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	0	次回APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	利子
前期繰越収支差額	330,000	330,000	0	
収入計(①)	480,000	480,000	0	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
支出計(②)	0	0	0	
次期繰越金(①-②)	480,000	480,000	0	

ドネシア、モンゴル、イスラエルの8カ国に招待状を出す。なお、加盟国拡大については、現在のところ連絡がない。

・APA2016（日本大会）に関わる雑誌について：IUPシンポジウム特集号は、Archaeological Research in Asia 17（2019年3月）に掲載され、刊行済み。一般セッション特集号は、Quaternary Internationalでまもなく刊行。

研究企画委員会

1. 第16回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催：日程：2018年6月23日（土）～24日（日）、会場：早稲田大学戸山キャンパス。シンポジウム「日本列島への人類拡散と後期旧石器時代の成立を考える」発表10本、一般研究発表6本、ポスターセッション9本。『旧石器研究』第15号に成果論文を掲載予定。

データベース委員会

データベース委員会活動方針の基本（2017年度より継続）：「日本列島の旧石器時代遺跡」データベースを、“最新のデータにもとづき、より使いやすく、維持管理の容易なデータベースに！”

1. 更新・改訂作業

(1) 基本方針：2010年版以降の新データ、欠落データの追加・補足。収録情報の確認、とくに位置情報の高精度化。文献書誌情報の外部データベースとの紐づけ（奈文研「総覧」ほか）。

(2) 「旧石器遺跡マッピングパーティー」更新作業ハンズオン・ワークショップ（WS）：2018年12月15日：郡山女子大学（東北日本の旧石器文化を語る会と共催）。2019年2月9日：福岡市博物館（九州旧石器文化研究会・福岡旧石器文化研究会・島根大学法文学部山陰研究センターと共催）。

(3) 普及活動：2019年2月10日：広報委員会と共同でデータベースワークショップミニセッションを開催（詳細は広報委員会の報告参照）。

2. 更新・改訂版の公開準備：学会HPに更新・改訂版のページ、データベース利用規約のページを新設（内容を調整中）。更新・改訂が完了した秋田県、宮城県、奈良県の公開に向けて調整中。2010年版はほぼ現状のまま公開を継続。新たな冊子・図版は作成しない。

入会資格審査委員会 2018年度は以下の入会申し込みがあった。

川端結花（2018年4月18日入会申込、4月22日資格審査結果報告）。沖野実（2018年5月10日入会申込、5月12日資格審査結果報告）。赤井文人（2018年6月7日入会申込、6月11日資格審査結果報告）。諸星良一（2018年6月18日入会申込、6月20日資格審査結果報告）。高山正久（2018年9月3日入会申込、9月9日資格審査結果報告）。市田直一郎（2018年12月27日入会申込、2019年1月9日資格審査結果報告）。平澤悠（2019年1月23日入会申込、1月24日資格審査結果報告）。上記7氏の資格審査を加藤真二、阿子島香（～2018年6月23日）、諏訪間順（2018年6月23日～）で厳正に行い、会長に結果を報告した。

広報委員会

1. 普及講演会を開催し、日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PRに努めた。

(1) 第1回普及講演会

・開催日：2018年11月10日、会場：アキタパークホテル、主催：秋田考古学協会、共催：日本旧石器学会広報委員会。【内容】基調講演：沢田敦広報委員「氷河時代を生き抜いた狩猟民—東北地方の旧石器時代—」／講演：石川恵美子会員「米ヶ森遺跡～秋田旧石器研究の幕開けと今日的課題～」、赤星純平氏「旧石器時代の石斧」、神田和彦会員「地蔵田遺跡～ハンターたちの活動痕跡を追う～」。

(2) 第2回普及講演会

・開催日：2019年2月10日、会場：福岡市博物館講座室1、主催：日本旧石器学会広報委員会・データベース委員会、共催：九州旧石器文化研究会・福岡旧石器文化研究会・島根大学法文学部山陰研究センター。【内容】：旧石器時代遺跡DBワークショップ・ミニセッション「新しい『日本列島の旧石器時代遺跡』データベースが目指すもの」、講演：光石鳴巳DB委員長「新しい『日本列島の旧石器時代遺跡』データベースが目指すもの」、落合謙次氏「旧石器時代遺跡データベースとオープン

データ活用の可能性：WEB-GISによる利用の観点」／講演会「福岡の旧石器文化—福岡平野とその周辺—」：高橋慎二氏「開会あいさつ：福岡旧石器文化研究会の活動」、杉原敏之氏「福岡の旧石器文化—福岡平野とその周辺—」、芝康次郎会員「福岡の旧石器文化—福岡平野とその周辺—」、辻田直人会員・川道寛会員「雲仙北麓の遺跡群と黒曜石の消費」／シンポジウム「福岡の旧石器文化—福岡平野とその周辺—」。

2. HPでは、旧石器学会、講演・共催事業・関連学会等の情報提供をはじめ、各種コンテンツを追加。

(1) ホームページ更新

・7月4日：企画展「東京最古の旧石器」開催案内の掲載／シンポジウム「東京の旧石器—3万年前、環境と人々の暮らし」開催案内の掲載、7月21日：『旧石器研究』第14号目次の掲載／「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査について（お知らせ）」の掲載、8月21日：「会長挨拶」と「組織」の掲載、「会則等」と「旧石器研究投稿規程・執筆要項」に関する改定の掲載、8月22日：第44回九州旧石器文化研究会の開催案内の掲載、9月11日：シンポジウム「神子柴系石器群 その存在と影響」開催案内の掲載、9月17日：ニュースレター第39号の掲載、9月28日：「初期先史学・第四紀生態学における第21回チュービンゲン大学研究賞の募集」の掲載、10月17日：2018年度日本旧石器学会第1回普及講演会の開催案内の掲載、11月7日：第32回東北日本の旧石器文化を語る会の開催案内の掲載／福島旧石器遺跡マッピングパーティーの開催案内の掲載、11月20日：ニュースレター第39号の掲載、12月6日：パレオアジア2018公開講演会の掲載、12月29日：九州旧石器遺跡マッピングパーティーの開催案内の掲載／日本旧石器学会2018年度普及講演会・データベースワークショップミニセッションの開催案内の掲載。

・1月11日：「2019年度日本旧石器学会総会研究発表の募集」の掲載、2月8日：石器研究会講演会白石浩之氏「文化変動する先史時代の日本」開催案内の掲載、2月11日：2019年度日本旧石器学会総会・研究発表の募集案内掲載。

(2) 「日本列島の旧石器時代遺跡」の追加

3月に、次の7遺跡を追加した。出張遺跡（三重県）、真野遺跡（滋賀県）、門前第2遺跡（西畝地区）（鳥取県）、宇部台地の遺跡群（山口県）、高見I遺跡（愛媛県）、サキタリ洞遺跡、港川遺跡（沖縄県）。また、和知白鳥遺跡（広島県）については、掲載に向けて準備中である。

3. その他 後援・協力事業等 後援・協力事業等は特になし

2019年度活動計画

2019年6月29日(土)日本旧石器学会総会が開催されました。2019年度の活動計画案について各委員会から報告が行われ、審議の後に承認されました。内容につきましては以下の通りです。

総務委員会 以下の項目に取り組み、それ以外は経常的な会務に取り組む。

1. 総会・研究大会・シンポジウムの準備・連絡調整：2020年6月札幌国際大学開催で調整中。
2. 日本旧石器学会賞の選考：【工程】2019年8月ニューズレターで推薦を告知⇒2020年3月頃選考委員会開催、推薦をもとに受賞者候補決定⇒5月の役員会で決定⇒6月総会にて授賞式。
3. 第9期役員選挙：選挙管理委員は、市田直一郎会員、伊藤健会員、西井幸雄会員に委嘱する。
【工程】2019年12月ニューズレターで選挙告示⇒2020年2月立候補・候補者推薦締切⇒2月選挙公報および投票用紙の送付⇒4月選挙管理委員会による開票⇒4月ニューズレターで選挙結果の報告⇒6月総会にて新役員を報告。
4. 研究グループ：2019年度役員会で採択された研究グループに運営費交付金を交付し活動を支援。
5. 日本旧石器学会賞規定および『旧石器研究』投稿規定・執筆要項の改訂：2019年度総会において、役員会(2019年5月18日)ならびに役員MLで審議した「日本旧石器学会賞規定」と「『旧石器研究』投稿規定・執筆要項」の改訂を提案する。

会計委員会(表3、表4参照)

1. 一般会計：2018年度と同様の事務に加え、役員改選に伴う経費の支出管理と研究グループ運営経費の管理を行う。物価上昇や消費税増税など経営圧迫要因があるが、経営安定と活動充実の両立を図る。
2. 特別会計：所定の150,000円を積み立て、630,000円を2020年度に繰り越す。

会誌委員会

1. 活動の課題：2018年度の会誌編集作業は、投稿原稿の集約が比較的順調であった。ただし、査読・編集作業の着手がやや遅れ、改訂稿の作成時間を十分に確保できたとはいえない。16号も、15号と同様に5月中旬に刊行するため、執筆者には11月末までの投稿をお願いするとともに、会誌委員の相互協力・連携のもと、編集作業の工程にゆとりを持ち、

十分な査読・リライト時間の確保を目指す。また、質の高い会誌内容の維持と安定した会誌刊行を行うために、できるだけ早い時期に一定数の論文の投稿予告を把握する必要がある。そのため、会員の自発的で積極的な投稿を促進する体制づくりや研究企画委員会との連絡・調整を行い、会誌の内容が多様でバランスのよい構成となるように努める。

2. 活動計画：昨年度と同様、引き続き以下の目標を定める。会誌第16号が充実した内容となるよう責任ある編集体制を確保する。①研究企画委員会と協力しつつ学術的水準を維持し、意欲的で充実した誌面づくりに努める。そのため、各地域の会員からの投稿を募り多様な論考を集約する。②編集工程を改善し、今年同様2020年の日本考古学協会までに会誌を刊行する。③旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知し協力を求める。これまでに投稿実績のない執筆者からの投稿も積極的に呼びかける。

ニューズレター委員会 2019年度はニューズレター第42号、第43号、第44号の編集・発行を行う。掲載を予定している主な内容は以下のとおり。

〈第42号〉日本旧石器学会第17回大会の開催(報告)、2018年度委員会報告、2019年度活動計画、2018年度日本旧石器学会賞受賞者の発表、2019年度学会賞の推薦募集、2019年度日本旧石器学会役員会、日本旧石器学会賞規程の改訂について、関連学会情報、お知らせ／〈第43号〉2018年度日本旧石器学会賞受賞者報告、役員選挙公報、2020年度総会・研究発表・ポスターセッション発表の募集、普及講演会の案内、関連学会・出版情報、お知らせ／〈第44号〉役員選挙結果報告、2020年度日本旧石器学会 総会・研究発表・シンポジウムの案内、普及講演会報告、研究グループ活動報告、関連学会・出版情報、お知らせ

渉外委員会

APA2020(中国大会)に関わる連絡調整をおこなう。北京原人発見90周年記念シンポジウム(2019年12月：北京)など、海外での学会、シンポジウムに関して情報収集をおこない、必要に応じて、会員にアナウンスをおこなう。

研究企画委員会

1. 第17回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催：2019年6月29～30日、大正大学巣鴨キャンパス、シンポジウム「旧石器研究の理論と方法論の新展開」発表7本／一般研究発表：口頭9本、ポスターセッション10本。

・シンポジウム発表者に対して『旧石器研究』第

表3 日本旧石器学会2019年度一般会計予算（単位：円）

収 入				
費 目	2019年度 予算	2018年度 決算	2018年度 予算	摘 要
会費収入				
会費収入	1,398,000	1,455,000	1,398,000	会員数229人×6,000円
その他の収入				
会誌頒布代金	252,000	252,800	240,000	
シンポジウム予稿集頒布代金	234,000	234,900	250,000	
その他収入	0	36,476	10,000	
前期繰越収支差額	1,922,816	1,754,890	1,754,890	
収入計	3,806,816	3,734,066	3,652,890	
支 出				
会議費・会場設営費	139,000	67,660	60,000	日本考古学協会図書交換会卓代、総会～シンポジウム会場使用料・会場設営補助アルバイト代、DBWS会場使用料・WiFiルーターレンタル料、普及講演会会場使用料
旅費交通費	167,000	198,000	250,000	学会賞選考委員・シンポ発表者・DBWS開催委員・普及講演会講師の交通費補助
通信運搬費	139,000	141,402	190,000	会誌・NL・役員選挙投票用紙送料等
消耗品費	3,000	15,422	10,000	事務用品等
印刷製本費	1,093,000	1,088,208	1,080,000	会誌、研究発表・シンポ予稿集、NL、普及講演会広報ポスター・チラシ等
諸謝金	0	0	0	
委託費	66,000	64,800	64,800	HP管理・メーリングリスト構築運用
次回APA日本大会経費積立	150,000	150,000	150,000	
研究グループ運営経費	30,000	0	0	
シンポジウム開催準備費	10,000	0	35,000	次年度打合せに係る交通費・会場使用料等
日本旧石器学会賞関連経費	34,000	59,952	40,000	賞状製作、副賞
雑費	27,000	25,806	30,000	郵便振替・銀行振込手数料等
予備費	1,948,816	1,922,816	1,743,090	
支出計	3,806,816	3,734,066	3,652,890	

(備考) 年度間の繰越金を除く単年度収支

	2019年度 予算	2018年度 決算	2018年度 予算
前期繰越金を除く収入	1,884,000	1,979,176	1,898,000
予備費を除く支出	1,858,000	1,811,250	1,909,800
収支差額	26,000	167,926	△11,800

表4 日本旧石器学会2019年度特別会計（APA日本大会開催経費積立）予算（単位：円）

収 入				
費 目	2019年度 予算	2018年度 決算	2018年度 予算	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	150,000	次回APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	利子
前期繰越収支差額	480,000	330,000	330,000	
収入計(①)	630,000	480,000	480,000	
支 出				
費 目	2019年度 予算	2018年度 決算	2018年度 予算	摘 要
APA日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出計(②)	0	0	0	
次期繰越金(①-②)	630,000	480,000	480,000	

16号（2020年）への原稿の投稿を依頼する（会誌委員会と協力し、執筆要項、締切日などを打診）。

2. 第18回日本旧石器学会の準備：次年度の研究大会は、北海道大会となる。北海道旧石器関係者と会場、日程調整を進めている。会場は札幌国際大学（札幌市）で調整中、日程は2020年6月上旬（13～14日案が有力）で調整中。一般研究発表の変更点：ポスターセッションコアタイムを1日目に入れる。口頭発表は15分とする。1日目の発表開始時間を14時45分とすると、口頭発表数は今年度より少なくなる（5～7本）。シンポジウムの企画：2019年8月下旬～9月にシンポジウムのテーマ・発表者（案）を出す⇒10月会場確保。発表者決定、

シンポジウムプログラム（仮）作成、関係役員へ周知⇒11月シンポジウム発表者へ依頼文・プログラム・執筆要項を発表者へ送る⇒12月企画したシンポジウムの構成を決定し、役員内周知などを進める⇒2020年3月シンポジウム発表者と役員（総務、研究企画委員）で打ち合わせ、会場の下見⇒5～6月予稿集原稿の締切、予稿集の編集。

3. その他：【懸案事項】シンポジウム発表者から『旧石器研究』への投稿が少ない。シンポジウムを一過性の企画で終わらせず、研究の進展への貢献という意味でも論文化が必要。分野外の発表者からも、「総論」や「総説」を寄稿してもらうことは学会設立の趣旨に照らしても重要。シンポジウム発表

後の会誌への寄稿が難しい場合、執筆期間を延ばす措置（2～3年以内に投稿など）も有効と思われる。役員の方断続的な投稿のリマインドも必要。

データベース委員会

1. 改訂・更新作業の継続：基本はウェブ上での協働（共同）作業で進める（できる人が、できる時に！）。更新作業ワークショップの開催を通じて協力者を確保し作業方法を周知。開催地域の候補として北関東（群馬県）、北陸（新潟県）、四国（徳島県）などがあげられる。研究上価値のある付加情報の整備とより効果的なDB連携について検討する。引き続き奈良文化財研究所と協働の予定。

2. 改訂・更新版の公開：作業が完了した部分から都道府県単位での公開を予定。当面は、更新・改訂をほぼ完了している岡山県を公開するため準備を進める。外部サービスの利用・連携をはかり、更新・改訂完了分からデータソースを差し替え。

3. 課題：個人、地域研究会等の協力を得てWSを開催してきたが、その後の更新作業の進捗に必ずしもつながっていないのが現状。依然、ほぼ手つかずの地域も残る。WS開催とともに、開催後のサポートが課題。広く協力者を得ての体制づくりが必要。

入会資格審査委員会 入会申込者の資格審査を迅速に行う。会員各位においては引き続き、積極的に入会希望者掘り起こしと勧誘を行っていただきたい。

広報委員会 日本旧石器学会や旧石器時代の周知PRのために、普及講演会の開催、HPの更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に活動を行う。

1. 2019年度日本旧石器学会普及講演会を開催し、学会や旧石器時代の周知・PRに努める。以下の講演会を実施予定。2019年8月3日、東京都埋蔵文化財センター会議室、主催：日本旧石器学会、共催：東京都スポーツ文化事業団・東京都埋蔵文化財センター。【内容】阿子島香会長による講演「アメリカとフランスの旧石器研究を比較して考える」

2. 昨年度に引き続き、旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。（1）掲載遺跡が少ない北陸・東海、九州を中心に10遺跡前後を構想している。＊複数年計画で47都道府県の旧石器時代遺跡を網羅する予定（2）「旧石器時代の教科書」についても、コンテンツの追加を検討する。

3. HPへのアクセスを増やすための方策を検討する。（1）閲覧・ダウンロード数の確認と分析をあらためて実施する。（2）データベース委員会との連携。遺跡データベース改訂に向けて、引き続き総務委員会とも連携して協力する。

4・その他 旧石器時代関連の周知に関する共催・後援・協力事業を実施する。

2018年度日本旧石器学会賞受賞者

2018年度の日本旧石器学会賞選考委員会を2019年3月16日に開催し、学会賞候補者1名、奨励賞候補者1名を選考しました。それを受け、5月18日の役員会においてそれを了承、決定し6月29日の総会において授賞式を行いました。2018年度の受賞者は以下の通りです。

・2018年度学会賞受賞者：伊藤健（東京都埋蔵文化財センター）

・2018年度奨励賞受賞者：岩瀬彬（首都大学東京）

なお、「選考理由」および「受賞者の言葉」は、ニュースレター第43号にて報告します。

2019年度学会賞の推薦について

「日本旧石器学会賞規定」に則り、2019年度の学会賞受賞候補の推薦を募ります。旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員を推薦してください。

1. 推薦内容：学会賞受賞候補

2. 推薦期間：2019年10月1日（火）～2020年2月14日（金）（必着）

3. 推薦者の資格：日本旧石器学会員

4. 推薦方法：学会賞受賞候補の氏名、学会賞受賞候補の推薦理由、推薦者の氏名・連絡先をご記入の上、郵送もしくは電子メールにより下記の事務局あてに送付して下さい。

5. 注意事項

・推薦は自薦・他薦を問いませんが、お一人につき一名を限度とします。

・学会賞受賞候補は、日本旧石器学会会員に限りません。推薦にあたって、学会賞受賞候補ご本人の承諾を得る必要はありません。

・推薦の書式は自由です。

・推薦理由は概ね100字から300字にまとめてください。

6. 応募先・照会先：日本旧石器学会事務局（担当：佐野勝宏・渡辺丈彦・岩瀬彬）〒192-0364

東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京 人文社会学部人文学科 歴史学・考古学教室気付

(jim@palaeolithic.jp)。

2019年度日本旧石器学会役員会 (2019年4月～2020年3月)

会長：阿子島香 副会長：諏訪間順
総務委員会：*佐野勝宏、岩瀬彬、渡辺丈彦、
鈴木美保
会計委員会：*沖憲明、小野章太郎
会誌委員会：*松本茂、海部陽介、長崎潤一、
下岡順直、小原俊行、三好元樹
ニュースレター委員会：*橋詰潤、馬籠亮道、
山崎真治
渉外委員会：*加藤真二、門脇誠二、出穂雅実
研究企画委員会：*中沢祐一、海部陽介、
三好元樹、尾田識好、門脇誠二
データベース委員会：*光石鳴巳、馬籠亮道、
小原俊行、小野章太郎、野口淳、氏家敏之、
国武貞克
入会審査委員会：*加藤真二、諏訪間順
広報委員会：*立木宏明、尾田識好、沢田敦
*は委員長 __は委嘱委員
会計監査委員：藤野次史、小嶋善邦
日本旧石器学会賞選考委員：*鈴木美保、
阿子島香、諏訪間順、中沢祐一、佐野勝宏
アジア旧石器協会：阿子島香（副会長）、
加藤真二・出穂雅実（執行委員）

日本旧石器学会賞規程の 改訂について

若手研究者の育成、研究奨励を更に推進するため、若手研究者対象の賞の設立に関して、学会賞選考委員会および役員会で審議した。その結果、新たに若手奨励賞を設立し、これまでの奨励賞を論文賞に変更することとした。これに伴い、日本旧石器学会賞規程の改訂案を作成し、2019年6月29日に開かれた総会において提案した。その結果、会員から幾つかの意見が出たため、改訂案について再度審議し、下記の通り日本旧石器学会賞規程を改訂することとした（下線部変更点）。また、日本旧石器学会賞規程の改訂に伴い、『旧石器研究』の「投稿規定・執筆要項」と「送り状」も改訂した。こちらは、学会ウェブサイトでも最新版をご確認ください。

【日本旧石器学会賞規定】（変更箇所のみ抜粋）

[賞の種類]

2. 本学会に、学会賞、論文賞、若手奨励賞を設ける。
4. 論文賞は、会誌「旧石器研究」に優れた業績を発表した会員に授与する。なお、論文賞の対象が研究グループ等の複数の発表者であることを妨げない

が、論文賞受賞者が筆頭著者もしくは責任著者であることを条件とする。

5. 若手奨励賞は、若手研究者の育成と研究の奨励を目的として、日本旧石器学会の研究発表（口頭及びポスター）で優れた発表をした会員に授与する。

[選考の方法]

6. 学会賞、論文賞、若手奨励賞を選考するため、日本旧石器学会賞選考委員会を置く。日本旧石器学会賞選考委員会は、会長、副会長、研究企画委員長、総務委員長及び会長が選考した会員1名で構成し、日本旧石器学会賞選考委員の互選により日本旧石器学会賞選考委員長を置く。日本旧石器学会賞選考委員の任期は2年とし、日本旧石器学会役員の任期と同期とする。

8. 日本旧石器学会賞選考委員会は、学会賞の受賞者を推薦のあった学会賞受賞候補の中から選考する。論文賞の受賞者を、会誌「旧石器研究」に発表した会員の中から選考する。若手奨励賞の受賞者を、日本旧石器学会の研究発表で発表した若手会員（当該年度4月1日時点で35歳未満）の中から選考する。

9. 日本旧石器学会賞選考委員会は、学会賞と論文賞の選考理由書を添えて役員会に選考結果を報告する。役員会は、選考結果の報告を受けて受賞者を決定し総会に報告する。若手奨励賞は、日本旧石器学会賞選考委員会が大会中に選考し、役員会は選考結果の報告を受けて受賞者を決定する。

[授賞式]

10. 学会賞受賞者及び論文賞受賞者の授賞式は、毎年1回総会にあわせて行う。若手奨励賞受賞者の授賞式は、毎年1回大会2日目に行う。学会賞受賞者及び論文賞受賞者へは賞状を、若手奨励賞受賞者には賞状及び副賞を授与する。

[付則]本規定は2019年8月1日から施行する。

関連学会情報

岩宿フォーラム 2019 開催のご案内

2019年11月2日(土)・11月3日(日・祝)、群馬県みどり市笠懸公民館において、岩宿フォーラム2019を開催します。今回のシンポジウムでは、岩宿遺跡発掘70周年を記念して、9月8日に一般の方に向け行われる東京での講演会の内容を踏まえ、発掘から70年を経た岩宿（旧石器）時代の研究の現状と課題について研究・討論します。

主催：みどり市教育委員会・岩宿フォーラム実行委員会 主管：岩宿博物館

開催日：2019年11月2日(土)・11月3日(日・祝)

会場：笠懸公民館（1階 交流ホール）

テーマ：『日本旧石器時代の研究の現状と課題』

日程

○1日目 11月2日(土) 13:30~17:00

記念講演「岩宿遺跡の発見と日本列島の旧石器時代」
安藤政雄氏(明治大学名誉教授)

講演①「沖縄列島の人類化石と人類の日本列島への渡来」
土肥直美氏(元琉球大学准教授)

講演②「旧石器時代の地形と遺跡の立地」
比田井民子氏(日本考古学協会)

○2日目 11月3日(日・祝) 9:00~15:00

講演③「石器石材の運搬ネットワーク」
島田和高氏(明治大学博物館)

講演④「石器に残された痕跡と実験」
御堂島正氏(大正大学教授)

講演⑤「石器の編年と狩猟具の発達」
白石浩之氏(愛知学院大学客員教授)

講演⑥「旧石器時代人の生活と社会」
山田しょう氏(日本考古学協会)

パネルディスカッション(パネリストは東京会場の講演者と今回の講演者を予定。会場の皆様にも討論にご参加いただきます)

※参加費・講演集代金:参加費無料、講演集は有料頒布(予価700円)

※参加申し込み:住所・氏名・連絡先(所属)および参加希望日程を記入の上、10月末日までに事務局(岩宿博物館)にお申し込みください(iwajukuhaku@city.midori.gunma.jp)。

※岩宿博物館では、下記の通り10月から11月にかけて様々な行事が実施されます。

・岩宿遺跡発掘70周年記念特別展②『岩宿遺跡と日本の近代考古学』(会期:10月5日(土)~11月24日(金))

・岩宿大学第5講(無料公開講座) 共催:日本考古学協会 『岩宿遺跡と日本の近代考古学』

日時:11月24日(日)13:30~、会場:笠懸公民館1階交流ホール 講師:坂詰秀一氏(立正大学名誉教授)、矢島國雄氏(明治大学名誉教授)、小菅将夫(岩宿博物館館長)

お知らせ

メーリングリストの運用について

日本旧石器学会ではメーリングリストの運用を行っています。これは学会からの連絡手段として利用するとともに、情報交換の場として活用していくために設けたものです。ただ、2013年12月の運用開始から5年以上がたちましたがまだ多くの方が未

登録のままとなっています。未登録の会員諸氏におかれましてはメーリングリストにご登録いただけますようお願いいたします。メールアドレスを、事務局のメールアドレス(jimu@palaeolithic.jp)までお知らせください。速やかにご利用できるようにします。強制するものではありませんが、ご協力を願ひ申し上げます。

会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されていますので、会費は原則前納制としております。ニュースレター前号同封の払込取扱票等を用いて、今年度分会費の納入をお願いします。振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。全国の郵便局で簡単に手続きいただけます。ニュースレター第36号より毎号お知らせしておりますが、**2018度より年会費が6,000円になっております**。御理解のほどよろしく申し上げます。

また、会費滞納は本会運営に大きな支障を招く原因になりますので、前号同封の会費納入状況を御確認のうえ、2018年度以前の会費を未納の方は、未納分もあわせて納入をお願いいたします。

転居をされた方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても、本会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送していただけません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載いただくか、または事務局までメール等で御連絡ください。

日本旧石器学会入会申込み手続きについて

日本旧石器学会入会申込みにつきましては、入会申込書を日本旧石器学会ホームページからダウンロード(<http://palaeolithic.jp/join.htm>)し、必要事項を記載の上、日本旧石器学会事務局へ郵送してください。入会資格審査にあたっては論文等著作物の提出を求める場合があります。ご協力ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第42号
2019年9月7日発行
編集:日本旧石器学会ニュースレター委員会
橋詰 潤・馬籠亮道・山崎真治
発行:日本旧石器学会
事務局:〒192-0364
東京都八王子市南大沢1-1
首都大学東京 人文社会学部
人文学科歴史学・考古学教室気付
E-mail jimu@palaeolithic.jp
HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>